



東京多摩プロバスニュース

第 54 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2014. 5. 7.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

コミュニティプロバス…わが街・多摩を次世代へ

第 117 回 定例会

日 時 : 平成 26 年 3 月 5 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 3 学習室

出席者 : 32 名(会員数 35 名)

第 118 回 定例会

日 時 : 平成 26 年 4 月 2 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 31 名(会員数 35 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

創立 10 周年 そして「多摩プロバスかるた」

青葉若葉の多摩は一年で一番美しい季節です。東京多摩ロータリークラブ創立 35 周年事業として産声を上げた東京多摩プロバスクラブは、今度 10 周年を迎えました。

私達は豊富な人材の眠るこの街で、第二の人生を互いの交流を通じて地域社会に関わりを持とうとする人達の集りです。これまで様々の活動を行って来ました。5 周年は、当時始まろうとしていた裁判員制度の啓発活動として市民企画講座をシリーズで開き、また公募美術展を盛大に行いました。

10 周年は、記念事業として二つの事業を企画しました。一つは、市民生活の関心事である①首都直下型地震、②温暖化と異常気象をテーマに選び、関戸公民館と共催で 2 回の市民企画講座を開催しました。二つ目は「多摩プロバスかるた」です。

多摩ニュータウンは誕生して 40 数年が経ち、成熟した街へと向いつつあります。私達はこれまでのキャリアをこの街のこれからに何か生かせないかと考えてきました。5 周年当時も、美術展とは別の一つの案がありました。「多摩今昔」を、我々メンバーが汗を流して冊子にまとめる案でしたが、具体化に至りませんでした。

そして今回、「多摩プロバスかるた」はニュータウンと元の多摩という重層したわが

増山敏夫会長



街多摩の地域性を、歴史と未来という軸でビジュアル化するものです。会員参加型でという点でも、当時の「多摩今昔」案に共通するねらいがあり、私も大賛成でした。立案者・リーダーの山田正司会員の周到な準備と作業チームのおかげで、句案の会員公募、定例会での公表と投票、作業チームの整理、修正案の提案、定例会披露という手順が愚直に進められました。このことは会員参加型事業という点で大きな意味があったと思います。そして、素晴らしいカルタができました。

スローガン「コミュニティプロバス…わが街多摩を次世代へ」の理念に相応しい成果を、こういう形で残せたことは大きな喜びです。



伸びる新緑のユリノキ並木(多摩市中央公園レンガ坂)

1. 幹事報告

北村克彦幹事

1.1. 10周年記念式典(5月16日)関連

第I部 記念式典 11時～12時30分

休憩 12時30分～13時

第II部 記念祝賀会 13時～15時

式典・祝賀会会場：多摩アカデミーヒルズ

1.2. 次期体制について

3月10日(月)、会長経験者により副会長候補を選出、各委員会から選ばれた推薦委員により各委員長候補が下記の通り選出された。7月定期総会において正式に承認・決定する。

会長：山田正司、副会長：神谷真一、幹事：西村政晃

会計：藤寄喬子、総務委員長：倉賀野武士、研修・親睦委員

長：鈴木達夫、地域奉仕委員長：森川静子、広報委員長：

稲田興、監査：増山敏夫

1.3. 2月27日(木)八王子PCの「第18回生涯学習サロン」開講式

当クラブから3名が出席した。

1.4. 3月7日(金)日野PCの「生き方に学ぶ」講座

当クラブから3名が出席した。北原茂美氏による「病院がまちをつくる、人を育てる」

1.5. 横濱プロバス倶楽部との交流会

10周年記念事業の関係で来年度の新体制で進める。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

神谷真一委員長

1)3月度定例会(3月5日)

お客様：入会希望者 高村弘毅様

卓話：稲田興会員による「中国に逆輸出した和製漢字」のテーマで実施。 関連記事P3参照

2)4月度定例会(4月2日)

お客様：入会希望者 秋山正仁様

講話：NPO フェュージョン長池 富永一夫理事長による「NPO フェュージョン長池の活動」のテーマで実施。 関連記事P3参照

10周年記念誌用顔写真の撮影を行った。

2.2. 研修・親睦委員会

上田清委員長

4月3日(木)の「花見会」は、唐木田駅から多摩センター駅まで散策し、唐木田・宝野の桜を観賞した。その後、京王プラザホテルにて昼食をとり解散。参加者は23名。 関連記事P4参照

2.3. 地域奉仕委員会

大澤亘委員長

1)恒例の出前講座「そろばん教室」を3月17・18・19日の3日間にわたって行った。今年度は、学校側の事情などにより多摩第二小学校のみの実施となったが、市内の小中学校の中でも特に生徒数の多い同校の3年生3クラスの生徒合計約120人に対し、古澤靖雄会員が毎日1クラスずつ、3時限と4時限にそろばんの基本と足し算・引き算の実技

まで指導した。各回とも当クラブの会員1～2名が補助指導員として参加し、終了後は生徒たちと昼食をともにしながら歓談した。 関連記事P4参照

このそろばん教室は古澤会員の発案で平成18年にスタートして今年で9回目となるが、東京多摩ロータリークラブ主催の中学生俳句大会への協力とともに実質的には当クラブのESD(持続発展教育)への協力の先駆けとなろう。

2)2月9日(日)に行った村山貢司気象予報士による「温暖化と異常気象」の講演内容を冊子にまとめ理事会と定例会で全会員に配布した。5月の10周年記念式典参加の来賓にも配布予定。



地域奉仕委員会の皆さん

2.4. 広報委員会

平田哲郎委員長

1)東京多摩プロバスニュース第54号(5月7日発行予定)の執筆協力をお願いした。

2)創立10周年記念誌に掲載を予定している「多摩プロバスと私」の原稿の提出をお願いした。

3)ホームページの定期更新を実施(3月17日)した。

◇◇◇ 創立10周年記念事業 ◇◇◇

記念事業の概要

増山敏夫会長

前年度プロジェクトにおいて、記念式典の開催と記念事業として市民企画講座の開催とご当地多摩をテーマにした「多摩プロバスかるた」を会員参加型でつくることが決まり、今年度実施に移された。

1. 記念事業の市民企画講座(多摩市関戸公民館と共催)

①「首都直下型地震とそれを取り巻く環太平洋地殻変動」

講師 東京大学名誉教授理学博士 瀬川爾朗氏

平成25年11月10日(日) 参加者87人

②「温暖化と異常気象」講師 気象予報士 村山貢司氏

平成26年2月9日(日) 参加者42人

2. 記念事業の「多摩プロバスかるた」づくり

歴史カルタでなく、ニュータウン建設を経た現在、過去と未来をつなぐ多摩の地域性をビジュアル化し会員が汗して会員参加型のプロセスで創る。500セットを会員と来賓に記念品として配布。ならびに学校など教育関係者へ贈呈。

3. 記念式典と記念講演

5月16日(金)11時から記念式典と山田正司副会長による記念講演を「多摩ニュータウン建設に関わって」のテーマで多摩アカデミーヒルズで開催する。

4. 10周年記念誌の発行

式典での来賓あいさつ・講演内容・10年のあゆみ・全会員の寄稿文などを編集した記念誌を7月に発行配布する。

NPO フュージョン長池の活動

NPO フュージョン長池 富永一夫理事長

活動を3点に分けて紹介します。

1. NPO 法人設立まで

1986年、八王子市南大沢に夫婦と子供二人と私の母親と転居し、多摩ニュータウンで暮らすようになりました。その後、母は「地域貢献」と遺言を残し他界、1994年八王子市別所に引っ越したことを機に、団地管理組合理事になり、ささやかな地域貢献を開始した翌年(1995年1月)に、「阪神淡路の大震災」が発生。このような大震災が多摩ニュータウンで発生したらと考え、気合を入れて地域の人間関係造りを開始。



まず、居住する団地管理組合に「コミュニティ委員会」を結成し、団地内の子供達のために「平成狸合戦ぽんぽこ」のアニメの上映会を実施したところ大成功。この活動がその後発展し、別所地域の大宴会「長池ぽんぽこ祭り」になりました。このお祭りが進化する中で、多くの地域の方々とは知り合うことができ、大学の先生方から1998年12月にNPO法が施行されることを知りました。

2. NPO 法人設立後指定管理者になるまで

ずいぶん迷いましたが1999年12月にNPOフュージョ

ン長池を設立。その際、会社を退社して理事長に就任。「暮らしの支援事業」を目的に、事業型で職員を雇用できるNPO法人を目指すことにしました。

最初にマンション管理組合の仕事で居住者でできるように支援し、次に高速インターネット(ADSL)の普及事業を民間企業と連携して支援し、次にはコーポラティブ方式の住まいづくりを支援しました。これらは私が想像しなかった程マスコミに評価され、ずいぶん有名になりました。そんな最中の2001年に八王子市公園課より呼び出されて「長池公園自然館(体験学習施設)」の管理・運営業務を受託することになり、2001年7月から4年9カ月受託しました。

3. 指定管理者になってからの活動

2005年にコンペで勝ち、2006年4月から八王子市立長池公園(20ha)の指定管理者になりました。公園管理者として全国で一番になるためには、里山管理の専門家が幸せになり、また地域の高齢者や主婦や若者達にも幸せになってもらおうと決意しました。お陰で多くの老若男女に協力していただき「平成24年度緑の都市賞の国土交通大臣表彰」を受けました。テーマは「多様で美しい共生の地、長池公園」でした。多摩ニュータウンの中の僅か20haでしかありませんが、自然界と人間界が共生し美しく実を結ぶ地を目指して、これからも活動してまいります。

「中国に逆輸出した和製漢字」 稲田興会員

中国は常日ごろから五千年の文化・文明の歴史があると言っているくらいだから、「文化」とか「文明」と言う言葉が中国に無かったなんて信じられないと言うに違いない。これらに相当する漢語が中国に無かったわけではないが“culture”“civilization”を「文化」「文明」と訳したのは日本人である。現在中国が使用している社会とか人文・科学方面の名词・術語の7割は日本から輸入したものであり、これらの言葉は西洋の言葉を日本人が翻訳して、その後中国に渡り、中国語の中に根付いた。これらは合わせて900語程度だが、非常に使用頻度の高い語彙が多い。

◇日本の漢字化能力は中国より上だった！

明治維新を境に日本が欧州から新しい思想や概念を輸入した際、明治の知識人たちは的確な漢字を使用して外来語を日本語に翻訳していた。彼らは押しなべて高い漢字の素養を持っていた。日本人は西洋の言葉を日本語に訳す時、中国語の造語法の法則に従って、訳語を苦心惨憺して作り、新たに造語力を持つ接尾語(化・式・力・性・的・界・法・・・作用・社会・主義 etc.)を23種も考え出し、適用範囲を広げ、更には、中国語の語彙の複音化(それまでの中国の漢文はほとんど一文字)を促したのである。

◇和製漢字の移入・定着経緯

日清戦争以後の中国は“北は露、西は英、南は仏、東は日本と四方を列強に囲まれ危機迫る”という状況で、救国のためには維新が必要であり、逸早く西洋に学んで成功を遂げた日本を見習いたかった。そこでまず日本語書籍を大量に翻訳(当時翻訳された書籍の6割以上が日本語書籍)した。また日清戦争後間もなく清朝は駐日大使の新任と同時に13人の留学生を日本に派遣。十年後に8千人、翌年には13千人もの留学生を日本に送り込み、彼らが和製漢字を持ち帰り、中国国内に定着させたのである。

◇和製漢字の現状

現代中国人の多くは、それらの単語は初めから中国のものだったと思っている。このように漢字の国の人が違和感を覚えずに使っているということは、それだけ優れた訳だったとも言える。ある中国人の論文の中に、「私達が毎日大いに弁舌をふるうのも、冥想に耽ったり考えたりするのも、あれやこれや話す時の概念は、意外にも大部分日本人が作ったものである。それを思う時、私の頭皮が痺れて、ぞーっとしてしまう」と書かれている。

但し、現在の中国語は文字が簡体字表現であり、発音が四声を伴っているのも、日本人の発音とも異なり、一般の中国人は元々在った漢字として何の疑問も抱かずに使っており、日本からの輸入漢字という意識は全く無い。

◇◇◇ 委員会・サークル活動他 ◇◇◇

「そろばん出前講座」

古澤靖雄会員

今回はギタリスト関根さんの伴奏の元、いつものように懐かしい歌を、皆で楽しみますので期待して下さい。

一期一会の精神で毎年新しい子供たちとの出会いを、笑顔と、大きい声で、面白く、元気に自己紹介し、貴重な短い時間で子供たちとの一体感、親近



授業風景

感を教室いっぱいにする狙いを強く心掛けた9年間だった。

振り返ってみると初年度の子供たちは、今年大学生か、社会人となる年頃である。あの時一人ひとりに大きな“夢”を抱かせ、夢に向かって努力しよう！「約束したぞ」と結んだが、サッカー選手、野球選手と言った男の子、花屋さん、看護師さん、と手を上げたあの女の子、実現させたのだろうか？道半ばで努力中なのか？ みんながんばれ！！

今年は3月17～19日の三日間、多摩第二小学校で実施。ここ2～3年対象校が減少傾向にあるので次年度に向けて、多摩市教育委員会の重要施策であるESD(持続発展教育)と関わりがもてるよう努力していきたい。

「歌を楽しむ会」

瀬尾日出男会員



歌の練習

今回は「お嫁においで」・「希望」の2曲を中心に歌い重ね、何とか10周年の祝賀会には発表したいと考え、間に合わせる事ができればと練習を重ねましたが、残念ながら諦めざるを得ないようです。

3月19日(水)関・一つむぎ館にて、いつも通り歌を楽しみました。当日は他の催し物と重なり、参加者は8名とやや少ない中で、中味の濃い練習ができました。

「お花見会」

森川静子会員

4月3日(木)小雨の降る中、23名の参加のもと花見会を実施しました。唐木田駅を10時10分に出発。鶴牧西公園→奈良原公園→宝野公園→多摩中央公園→多摩センターの順で歩きました。

雨で人通りが少なく、じっくり桜を見られると思ったのですが、鶴牧西公園の枝垂れ桜は雨で色褪せ、その上散り始めており、がっかりでした。この公園の小高い丘に向けて登って行くと頂上に貯水槽があり、倉賀野武士会員の話によると、この水を利用して、かつては棚田があったそうです。現在は排水管が壊れ、水田を作る人も高齢化し、棚田が畑地に変わっていました。また、この公園の広場には、増山敏夫会員が、日本住宅公団(現在のUR都市機構)から依頼され設計したという収穫祭イベント用の“みどりの家”の建物がありました。

その後、奈良原公園から宝野公園に向い歩きましたが、こちらの公園はソメイヨシノが満開で、とても綺麗でした。この場所は、通称“富士見通り”と呼ばれ、富士山が遠くに見えて絶景だとか…。芝生を挟んで両サイドに咲く桜の花の彼方に富士山が見える光景を想像しながら歩きました。

ウォーキング後行きついた先は多摩センター駅近くの京王プラザホテル。ここの“樹林”でバイキングの昼食とあいなりました。朝食を控えてお腹の空いていた私にとっては、好きな物を沢山頂くことができ、大変満足致しました。



花より団子？

雨で寒い中の強行軍でしたが、皆さん健脚を誇り、何事も無く、無事ウォーキングを終えることができ良かったと思います。

◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇



3&4月誕生日を迎えられました！

写真左：3月誕生 左から
岡野一馬・小西加葉子
永島 仁・平田哲郎各会員

写真右：4月誕生 左から
澤 雄二・神谷真一
大澤 亘 各会員



1. 平田哲郎会員の卒寿記念写真展 登坂征一郎会員



賑わった写真展

平田会員の卒寿記念写真展が平成26年3月13日(水)～16日(日)、多摩市のコミュニティセンター唐木田菖蒲館で開催されました。

出展された作品は、80歳から始めたという写真(A3サイズ)200点、ビデオ・DVD40枚の珠玉の作品で、来場者は約180名、訪れた方々はその作品集に感銘深く鑑賞されておられました。

予てより平田さんの写真への執念にも似た情熱は、百里基地まで足を伸ばし、ジェット戦闘機の離陸時のあのエネルギーギッシュな飛翔の姿を写真に納めようとする、その意気込みに圧倒される思いでした。

展示された1枚1枚の写真から彷彿とするのは、撮影場所(シャッタースポット)の並々ならぬ周到かつ緻密な計画と、自然の移ろいゆく景色の、特に早朝の明けゆく景色、夕闇の暮ゆく景色、自然美と人工美の融合など。更に一番美しく輝く瞬間を見事に写し撮られるといった感性に、感嘆と感激に時の過ぎるのを忘れて見取れました。

これまでの10年間に10万kmに及ぶ全国走破の写真紀行には、必ず奥様が同行し、奥様の暖かな御助力と平田さんの年齢を超越したその精力的な行動並びにカメラ、ビデオは言うに及ばずスマホを操り、パソコンを使いこなすなど超長者に敬服頻り・憧憬の極みです。



平田ご夫妻

<唐木田菖蒲館 文化部長 栗原もちま氏談>

「菖蒲館では、普通の写真展とは違って、一般市民の方々が、個人でじっくり力を注いで作り上げてきた作品を展示するような企画を望んでいました。これを見る人々の感動を呼び起こさせる力になるのではないかと思います。」

2. 謝恩の茶会

森川静子会員



卒業生によるお点前

平成26年2月27日(木)都立府中工業高校を卒業する茶道部の生徒二人による謝恩の茶会を開催。

床の間に裏千家大宗匠筆の“無事是貴人”を掲げ、20名の先生方をお招きし、お薄一服差し上げる会とし

ました。手前する男子・女子には私が用意した和服を当クラブの小西会員が美しく着せて下さり、雛祭間近なこともあり、お二人はまるで内裏様のお点前と座が和みました。

二人は三年間の稽古の成果を立派に披露し、先生方は教え子の別な一面を知り、男子5名の下級生は水屋の忙しさを体験し、夫々一期一会の茶の心を会得し、有意義な思い出作りができたと思います。生徒の皆さん御苦労さまでした。私も手応えを感じ、教師冥利に尽きる一日でした。

3. 原生会絵画展

登坂征一郎会員

掲題の絵画展が、平成26年4月4日(金)～10日(木)、多摩市公民館ベルブ永山ギャラリーで開催され、当クラブから岡野・山田両会員が出品されました。岡野一馬会員の出品は3点で、「春の多摩」「秋の奥多摩」「秋の横濱」の季節感溢れる作品。特に「秋の奥多摩」は燃え立つような紅葉を軽妙なタッチで描かれていて大変印象的でした。また、山田正司会員の出品2点は八重山に旅行された時の作品でした。それぞれ個性あふれる作品が展示されておりました。

この原生会は60歳以上の男性のグループで、当クラブから岡野、山田両名の他に鴻池敬和会員が活躍されています。



展示会場で岡野会員

4. 貝絵展

吉岡喜久恵会員

去る3月28～29日の両日、多摩中央公園内の旧富澤家において、東京貝合わせ研究会の15名が心を込めて描いた貝絵の展示と貝合わせ遊びの体験会を開催しました。好天に恵まれ、門を入った左手にある高遠のコヒガンザクラも丁度見頃を迎え、美しい花を添えてくれました。

先ず二間続きの床の間の座敷に360個の貝を円形に設え、昔大名のお姫様が嫁入り道具の筆頭に掲げ持参した来歴などを説明し、手前の座敷には90個の貝を緋毛氈の上に並べて、貝合わせの遊びをしました。

二日間で230余名の方々が来場され、歴史の概略に耳を傾け、遊びも楽しんで下さり、特に子供たちの仕種がとてもほほえましく、これからもこの貝合わせを若い方々にお伝えしたく、心を新たにいたしました。



貝合わせ体験の様子

◇◇◇ 私の一品 ◇◇◇

「和顔愛語」

菊池直子会員

私の一品、先ず脳裏に浮かびましたのが写真の軸と茶杓です。二品で申し訳ございません。

この二つの茶道具は、以前「私とお茶」で触れました奈良での茶道の師縁の道具です。

今から三十五年前、これを手にした時、味わいのある字はさておき、なんて素晴らしい言葉でしようと感激しました。それから間なしにこの言葉は、裏千家十四代家元夫人清香院様のお好きな言葉と知り、そのお人柄を思い改めて感慨にふけたものでした。

この言葉は無量寿経の中の一節です。和やかで穏やかな顔に、優しく慈愛に満ちた言葉。「この二つがあれば人と人との間に争いが起きるはずもなく、常に平和が保たれます。それに何といてもいつでもどこでもできるのですからこれ以上のことはありません」と奥様はおっしゃっていました。

茶杓は銘を「感謝」といいます。和顔愛語と感謝する心が備わっていればなんて穏やかな毎日でしょう。この景色、

撓め、色どれをとっても素晴らしくいつまで鑑賞していても飽きることがありません。掛物と茶杓のお道具は南都七大寺の一つ大安寺の管長の手になるものです。奈良での師は、この道具で私にいろいろなことを諭されたのでしょうか——、和顔・愛語・感謝の三つのことを常に頭の中のことかにかあるよう心掛けたいと思っています。

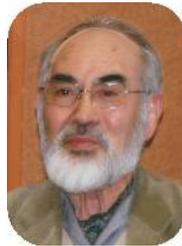


◇◇◇ 新会員紹介 ◇◇◇

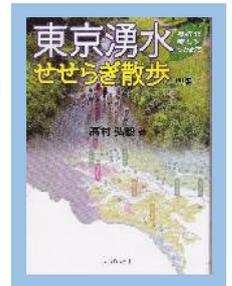
高村弘毅会員

「水」の権威。元立正大学学長。
1937年生れ。専門は、水文学・水資源学・地下水学。

多摩ニュータウン開発前の自然環境の研究に携わるため多摩市へ移住され、国際交流センター (TIC) 理事長も務め



られた。著書は多数あるが、ポピュラーな書は右の写真の『東京湧水・せせらぎ散歩』や『地下水と水循環の科学』など。現在も国際会議に出席され英語で論文を発表しておられる。岡野一馬・中村昭夫会員らがお宅を訪問してプロバスを紹介し、ご多忙の身ながら今回入会の運びとなった。



(滝川益男会員記)

◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

青葉若葉の生気に押されたか充実した原稿がいただけた。総力結集のカルタ誕生。そろばんは計算器具のみでなく子供の性格・将来をも変える学科である。「雨二モ負ケズ」を地で行った花見会など。いずれも会員の様子を伝えている。

中でも平田哲郎会員の写真展を筆者も拝見。歓喜のあまり口走った語を恥ずかしながら編集後記とさせていただきます。
◎八十路来 探求心の治まらず追い求めたる映像美 溜まりに溜まって200枚。

◎夜来雨 この機のがしてなるものか ハンター並みの機敏な構え 光る雫の消えぬ間に。

◎出かけるぞ 明け六ツ暮六ツに車出す 夫唱婦隨のプラチナ婚 二人三脚 心で感謝。

◎年重ね尋ぬる山河10万キロ 自然と一体時空超え 一期一会の走馬灯。

以上書き終え外に出たら、いづくんや白藤の妙艶な香りに誘われて暫し辺りを歩む。 (広報委員 阪東熙子)